

## 現場の諸状況と切り結ぶ教養科目「キリスト教学」の多角的・横断的展開

### 背景・目的

「キリスト教学」の関心が人間社会の諸課題の共有へ移行していることを背景に、カルト脱会者、同性愛者、貧困国出身のソーシャルワーカー、車椅子生活者など当事者の話に耳を傾け、共生社会構築の手がかりを共に模索する。

### 実施内容

#### 【カルト脱会者たちのナマの証言】

「カルト被害者は自発的にその集団に入会するもの」との誤ったイメージが蔓延しているが、知らないまま勧誘され、錯誤を誘導されて入信に至ったという被害実態を男性・女性脱会者が証言した。重大な自己決定の機会に偶然に気付かないまま、偏向した情報や虚偽による誘導に長期間に渡って晒されたために人格の変容を来し、カルトのメンバーにさせられた。特殊な素養を備えた人が巻き込まれる問題という捉え方には何の根拠もないという実態に驚愕する学生も多数見られた。

#### 【車椅子から見た共生社会】

24時間周囲の協力と支えなしには生存しえないという究極の人間関係の中で生きる車椅子生活者自身（有田憲一郎氏、太白区ありのまま舎）が、自らの生い立ち、インド・バングラデシュ旅行など、これまでの自分の歩みについて語った。街中で知らない人に声をかけてトイレのお手伝いを頼むこともあり、「生きる」ために「信頼」が不可欠である。人にじろじろ見られても、「見てくれてありがとう！」という気持ちになる



る彼は、胸を張って自分の存在を社会の中で見せることに大きな意義を感じている。そこ

から、失われた人間関係の回復のプロセスのヒントが垣間見えてくる。

#### 【平和構築、リベリアの現状と今後】



アフリカの貧困国リベリア出身のミアタ・ロバーツ氏（学校法人アジア学院スタッフ Church Aid

プロジェクト・マネージャー）は、「皆さんはなぜ、何のために大学で学んでいますか？」と問いかけた。深刻な内戦を経験したミアタ氏は、女性たちの共同組合、子どもたちの学習支援、女性、暴力的状況下で育った青年を対象に行っている支援活動を紹介した。平和の第一条件は「食」であるとする氏の発言に対しては、食品栄養学科学生から「当たり前のもので食べ物があるから考えたこともなかった」というコメントがあった。

#### 【性的少数者の抑圧的状況の改善】

数々の事例を紹介したカムアウトのゲイ2名の証言は、異性愛の枠組みでは見えてこない日本社会の差別的構造と異性愛者側の無知蒙昧を浮き彫りにした。それと同時に、安心して暮らせる社会の在り方が、性別を超えた人間関係の構築と深く関係していることも示された。

#### 結果および考察

持続可能な本当の「経済」（オイコノミア）の構築が求められているにもかかわらず、弱者・弱国が切り捨てられていく時代状況の中では、カルト的幻想に惑わされず、小さな存在のために多くの人たちが手間暇をかける、「弱さ」を「絆」とする複雑な生き方がまっとうであることを再発見させられた。この再発見を次年度に向けて生かしていくことが重要である。